

## 「福岡100」のコンセプトのアップデートについて

### ○目的・概要

平成29年7月に開始した「福岡100」プロジェクトでは、産学官民「オール福岡」で100のアクションを実践することを目指し取組みを進め、節目としていた100番目のアクションとして、令和3年8月に策定した保健福祉総合計画(計画期間：令和3年度～令和8年度)に示す「支え合う福祉の充実」などの新たな施策の方向性を踏まえ、「福岡100」のコンセプトを更新(アップデート)。健康寿命延伸に加え、市民一人ひとりのウェルビーイング※の向上を目指す。

#### 〔経緯〕

平成29年7月 「福岡100」プロジェクト開始  
令和3年8月 保健福祉総合計画(令和3年度～令和8年度)策定  
令和4年10月 「福岡100」のコンセプトのアップデート

#### ※ウェルビーイング

身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念



### ○今後の方向性

「福岡100」のコンセプトのアップデートに伴い、旧来の取組み分野に加えて、ウェルビーイングの向上にむけた分野を追加し、次の6つの分野を重点的に推進。

<p><b>① 自然に楽しみながら健康になれるまち</b></p> <p>心と身体の健康は、高齢者だけでなく誰にとっても生きていくうえで大切な要素です。健康に関心があるかどうかに関わらず、すべての人たちが自然と健康になれる仕組みや仕掛けを作っていきます。</p>	<p><b>② デジタル時代の医療サービスが実現されるまち</b></p> <p>ICTやAIなどデジタル技術を活用することで、誰でもどこにいても必要なサービスを受けられる安心安全の健康医療体制を整備していきます。</p>	<p><b>③ 住み慣れた地域でいつまでも暮らせるまち</b></p> <p>年齢を重ねることで、病気や認知症、介護が必要になるなど、多くの変化が訪れます。いくつになっても不安なく暮らせるよう、日常生活のなかで生活を支えるケアを受けられる基盤を作っていきます。</p>
<p><b>④ だれもが役割をもって活躍できるまち</b></p> <p>年齢や病気や障がいの有無などに関わらず、どんな人でも「生きがい」を感じて社会参画・活躍ができる仕組みづくりや場の提供を進めていきます。</p>	<p><b>⑤ 多世代・多様な人がつながりあえるまち</b></p> <p>人とのつながりは、人生を豊かにする最も重要な要素の一つです。幅広い世代や多様な人となつがることで、生きることを歓べる社会と支え合いの仕組みを作っていきます。</p>	<p><b>⑥ 自分らしい生き方を選択できるまち</b></p> <p>エイジングリテラシーの向上、ソフトとハード両面でのバリアフリー化など、人生の最期まで自分で生き方や幸福のあり方を選択できる環境づくりに取り組んでいます。</p>

### ○新コンセプトに基づいた取組み事例

#### ●Beyond(ビヨンド)バリアプロジェクト

だれもが役割をもって活躍できるまちを目指し、時間や距離、参加手段等の制約を超えた(ビヨンドバリア)多様な働き方、多様な活躍の場をつくるプロジェクト。

令和4年度は、第1弾として重度障がいや難病などにより外出が困難な方の就労実現のため分身ロボットOriHimeを活用した実証事業を10月から開始。自宅に居ながらも、社会参加が可能になることで、誰もが自分らしく暮らすことのできる社会の実現を目指す。



介護施設で、施設利用者と1対1あるいは1対複数で会話を実施(2月上旬まで)

## <参考資料> 「福岡 100」の主な取組み例

福岡 100 では、行政だけでなく市民・企業・大学など、幅広い主体の参画を得るとともに、ビックデータ、AI・IoT などの新たな技術やエビデンスなどを積極的に収集・活用するなど、様々な社会資源を活用し、持続可能な仕組みづくりを推進している。

### (1) 幅広い主体の参画による取組み例

市民や企業などの幅広い主体の参画を促すことにより、認知症の人を社会全体で支えていくまちづくりや、在宅生活をおくる高齢者への持続可能な生活支援など、市民サービスの向上につなげている。

#### ① 認知症フレンドリーシティ・プロジェクト

認知症の人が認知症とともに住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指して、平成 30 年度に「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を開始し、様々な施策を展開している。

主要施策の一つである認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」について、家族介護者及び専門職向け講座に加え、地域や児童生徒などに展開し、令和 3 年度末時点で累計 135 講座、6,814 人が受講。

また、認知症の人も介護者もストレスなく安心して暮らせる環境を整備するため、「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」を令和 2 年度に発表。令和 3 年度末時点で高齢者施設や公共的施設 29 施設に導入済。

さらに、令和 3 年度には認知症の人の「支援」から「活躍」へのステップアップを図るため、認知症について自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ためのコンソーシアム「福岡オレンジパートナーズ」を設立。認知症の人や企業、福祉事業者等で構成し、令和 3 年度末時点で 81 社・2 団体が参画。認知症フレンドリーな商品の開発や、認知症の人が活躍できる場の創出を促進している。



中学校でのユマニチュード講座の様子



博多区役所新庁舎にデザイン導入



認知症の人の声を取り入れたバッグをパートナーズ参画企業が制作・販売

#### ② 買い物等の生活支援推進事業

地域と企業等のマッチングを図り、地域の支え合いによる買い物等の生活支援を推進。令和 2 年度までのモデル事業において、地域特性に応じた支援の仕組みを構築。令和 3 年度から買い物支援推進員を増員し、買い物困難を地域課題と感じている 9 つの地域で取組みを実施中。買い物支援の情報発信や協力企業等の登録（令和 3 年度末時点 32 社）も推進。



東花畑における移動販売



## (2)新たな技術やエビデンスなどを活用した取組み例

ビッグデータやエビデンスを活用した効果的な施策の推進を図ることにより、市民の健康寿命延伸につながる取組みを実施している。

### ①地域包括ケア情報プラットフォーム

保健・医療・介護等に関するデータを一元的に集約・管理・活用するための情報通信基盤（平成 28 年度運用開始）。約 230 種 42 億件のデータを蓄積しており、令和 2 年度から大学等と連携しデータ分析結果を活用することで、市民の健康寿命の延伸にかかる取組みを促進。

令和 3 年度の分析結果において、「痩せ」、「同年代と比較して歩行速度が速くない」、「咀嚼力の低下」などが、市民の要介護状態の発生リスクを高めることが明らかになったため、②③の取組みを実施。

### ②Fitness City プロジェクト

健康への関心の有無にかかわらず、「住むだけで健康になるまちづくり」に向け、身近な環境を活用し、自然と楽しく体を動かす、仕組みや仕掛けづくりを推進。

特に現役世代に顕著な健康課題である「運動不足」を解消するため、令和 4 年度から、オフィスワーカーが集まる博多駅周辺をパイロットエリアとして、公園や道路、駅などの身近な環境を活用した自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりを実施。



上るとピアノの音が鳴る階段



オフィス付近での体を動かすイベント

### ③オーラルケア 28（にいはち）プロジェクト

28 本（親知らずを除く）ある永久歯を生涯健康に保ち、健康寿命の延伸と Well-being（ウェルビーイング）の向上につなげるため、治療よりも予防に重点をおき、子どもが楽しみながら歯磨きの習慣作りができる取組みや、忙しい現役世代への定期的な歯科健診のきっかけづくりなど、ライフステージごとの特性に応じた取組みを、令和 3 年度から産学官オール福岡で実施。



取組み例：産婦歯科健診